

# 澤井講師の 「読むガイダンス」



## 合格率にだまされるな!

社労士試験の合格率は直近の令和7年度試験で5.5%でした。一見、難関試験のように感じます。

これが「数字のマジック」です。なぜなら、合格率というのは受験者に対する合格者の割合であって、その受験者層のレベルは数字には表れないからです。

例えば、法律系の難関試験種といわれる司法書士試験の合格率は例年3%台となっています。受験者の知的レベルは高く、「野球に例えればメジャーリーグ」です。一方社労士試験の受験者は、その7割~8割が会社員や自営業者であって、社会人となって「社労士資格の存在」を知つて受験にチャレンジする者がほと

んどです。よって、合格率の基となる母集団のレベル感がまったく異なるのです。野球で例えれば、「高校野球」といったイメージでしょうか。

## 働き方改革で得た時間はどう使うか

働き方改革の影響で残業時間が減少し、社会人にとって勉強しやすい環境が整つてきました。そうなると、仕事以外の時間をどのように使うかが、「将来のキャリアアップ」に大きな影響を与えることになります。

「受験をしながらもプライベートの時間を確保することができる状況となったのです」。

休息時間やお付き合いの時間も確保しつつ受験をすることが可能となったことは「社会人にとっての大きなメリット」といえるでしょう。

## 自分の将来を真剣に考えたとき

3年後の自分、5年後の自分、10年後の自分を想像してみて下さい。「仕事やボジションは」どうなっているでしょうか。

将来、転職やキャリアチェンジを考えたとき、やりがいのある仕事、満足の行く仕事に就くことができるのか、「社外でも通用するスキルや資格」があるのか。

そこに資格を目指す理由があるのです。社労士資格は、独立開業や法人設立に限らず勤務しながらでも登録できる自由度の高い国家資格です。また、社会的背景からそのステータス、認知度は年々上がっています。今のうちに社労士資格を取得しておくことは、「将来の自分への大切な投資」となるでしょう。

およそ2年半を要しました。ただし、「辛かったのは最初の半年だけ」で、その後の勉強は面白いと感じていました。

勉強が進んでくると、面白さに加えて「充実感」が出てきて社労士受験そのものを楽しめる体質となったのです。

こうなると実力もどんどん伸びていき、3度の目の受験では「楽に合格ラインを超えて」いました。「何事も楽しむことが大事」だと悟りました。

### 初期のインプット学習期

最初は少し辛いかもしれない



### 答案練習に入ると

練習試合みたいなもの、辛さはあまり感じない



### 充実期

勉強が面白くなり、一気に実力がつく

## 社労士資格は国が保障する専門職のライセンス

「あのとき何でやらなかったのか、せめて調べるだけでもできたのに」これを後悔といいます。中高年になってからも「カッコいい」と思われる人になりたい!

「専門スキルを駆使して諸問題を解決していくエキスパート」でありながら、「周囲の人への思いやりや優しさを忘れない」そんな人は周りからも信頼されます。

社労士資格は、労務や社会保障に関する手続きやコンサルティングを行う専門職です。人に関わる仕事も多く、その相談は多岐にわたります。

受験で勉強する科目も、労働法や社会保障制度など社会人にとっては身近な内容です。よって、社労士試験は社会人に向いているといえるのです。

「人生は1度だけです、自分の将来のためにチャレンジの扉を開いて下さい」「失敗とはできなかったことではなく、やらなかったことです」